

主要産地における平成29年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第2報（10月2日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成29年10月4日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考			
	予想収穫量 (29年9月15日 現在)①	予想収穫量 (28年9月15日 現在)②	前年産 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較	自主的取組参 考値との比較	作況指数 (29年9月15日 現在)	前年産 (28年9月15日 現在) との比較	29年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (29年8月末現在)	28年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (28年8月末現在)	生産数量目標			平成29年産 自主的取組 参考値 ④
										平成29年産 ③	前年産 との比較	増減率	
	t	t	t	t	t			%	%	t	t	%	t
全国	7,313,000	7,515,000	▲ 202,000	▲ 37,000	▲ 17,000	100	▲ 3	68.4	74.9	7,350,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,330,000
北海道	552,200	551,400	800	16,531	17,988	102	▲ 1			535,669	▲ 5,831	▲ 1.1	534,212
青森	225,300	223,000	2,300	▲ 11,994	▲ 11,349	99	▲ 4			237,294	▲ 2,583	▲ 1.1	236,649
岩手	252,900	254,300	▲ 1,400	▲ 12,532	▲ 11,810	100	▲ 1			265,432	▲ 2,889	▲ 1.1	264,710
宮城	342,300	347,300	▲ 5,000	1,107	2,036	100	▲ 3	96.8	77.9	341,193	▲ 3,713	▲ 1.1	340,264
秋田	398,200	408,200	▲ 10,000	▲ 10,444	▲ 9,332	99	▲ 4			408,644	▲ 4,448	▲ 1.1	407,532
山形	337,800	345,900	▲ 8,100	640	1,557	101	▲ 1	100.0		337,160	▲ 3,668	▲ 1.1	336,243
福島	328,900	332,400	▲ 3,500	▲ 3,416	▲ 2,512	100	▲ 2	91.6	91.5	332,316	1,930	0.6	331,412
茨城	349,300	354,100	▲ 4,800	19,118	20,016	100		96.9	96.0	330,182	▲ 3,594	▲ 1.1	329,284
栃木	273,400	296,400	▲ 23,000	▲ 18,926	▲ 18,131	93	▲ 10	100.0	100.0	292,326	▲ 3,182	▲ 1.1	291,531
埼玉	148,300	154,100	▲ 5,800	253	656	99	▲ 2	87.7	87.6	148,047	▲ 1,612	▲ 1.1	147,644
千葉	290,000	297,500	▲ 7,500	48,761	49,418	100	▲ 3	96.3	93.0	241,239	▲ 2,625	▲ 1.1	240,582
新潟	529,600	590,700	▲ 61,100	19,416	20,804	97	▲ 11	85.1	88.9	510,184	▲ 12,533	▲ 2.4	508,796
富山	182,500	191,600	▲ 9,100	805	1,300	101	▲ 5	91.6	91.8	181,695	▲ 1,987	▲ 1.1	181,200
石川	120,400	123,900	▲ 3,500	▲ 596	▲ 267	100	▲ 4	88.6	94.8	120,996	▲ 1,317	▲ 1.1	120,667
福井	122,300	126,300	▲ 4,000	▲ 487	▲ 153	101	▲ 3	94.3	94.2	122,787	▲ 1,327	▲ 1.1	122,453
長野	196,600	197,200	▲ 600	6,733	7,250	101	1	100.0	100.0	189,867	▲ 2,066	▲ 1.1	189,350
滋賀	155,100	161,300	▲ 6,200	▲ 1,932	▲ 1,504	100	▲ 4	83.0	89.5	157,032	▲ 1,709	▲ 1.1	156,604
兵庫	174,400	176,600	▲ 2,200	▲ 2,196	▲ 1,715	100		65.8	70.6	176,596	▲ 1,922	▲ 1.1	176,115
岡山	156,600	158,600	▲ 2,000	1,428	1,850	102	▲ 1	73.2	64.7	155,172	▲ 1,689	▲ 1.1	154,750
広島	122,000	122,900	▲ 900	▲ 5,201	▲ 4,855	101		52.2	81.9	127,201	▲ 1,384	▲ 1.1	126,855
山口	100,200	102,000	▲ 1,800	▲ 6,243	▲ 5,953	103	1	75.8	90.8	106,443	272	0.3	106,153
愛媛	70,300	73,300	▲ 3,000	▲ 2,045	▲ 1,848	102	▲ 2	35.6	68.4	72,345	▲ 788	▲ 1.1	72,148
高知	<u>54,100</u>	<u>53,700</u>	400	5,097	5,230	<u>103</u>	2	<u>18.6</u>	<u>21.2</u>	49,003	▲ 534	▲ 1.1	48,870
福岡	179,000	178,800	200	418	903	103	1	11.5	24.1	178,582	▲ 1,944	▲ 1.1	178,097
熊本	169,100	170,600	▲ 1,500	▲ 16,177	▲ 15,673	102		23.6	25.9	185,277	▲ 2,016	▲ 1.1	184,773
宮崎	<u>75,800</u>	<u>77,300</u>	▲ 1,500	▲ 15,806	▲ 15,557	<u>102</u>	2	<u>46.6</u>	<u>59.2</u>	91,606	▲ 997	▲ 1.1	91,357
鹿児島	<u>98,400</u>	<u>99,200</u>	▲ 800	▲ 10,304	▲ 10,008	<u>104</u>	2	<u>18.9</u>	<u>29.7</u>	108,704	▲ 1,183	▲ 1.1	108,408

注：更新箇所について、前報より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

収量構成要素、作柄及び品質等の概況																					
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）																				
北海道	<p>・9月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、6月が低温・日照不足で経過したものの、7月には天候が回復したことから「<u>平年並み</u>」となった。 登熟は、8月上旬が多湿で経過したこと開花・受精が良好であったこと、8月下旬から9月中旬にかけて低温で経過したものの、日照時間はおおむね平年並み以上に確保され籾の肥大及び充実が順調であると見込まれることから「<u>やや良</u>」と見込まれる。 （北海道農政事務所 9月29日付）</p> <p>（全道）9月前半の低温の影響で、登熟が遅れている（遅5日）。（北海道農政部 9月15日現在） （空知）低温により、登熟が進まず、生育は遅れた（遅5日）。（空知総合振興局 9月15日現在） （石狩）登熟は遅れている（遅5日）。（石狩総合振興局 9月15日現在） （後志）黄化籾率79%（平年値89%）、稔歩合は並、登熟はやや不良。生育は平年より5日遅くなっている。（後志総合振興局 9月15日現在） （胆振）生育はやや遅い（遅3日）。（胆振総合振興局 9月15日現在） （日高）低温により登熟が緩慢である（遅3日）。（日高総合振興局 9月15日現在） （渡島）登熟は平年より遅れて推移（遅5日）。（渡島総合振興局 9月15日現在） （檜山）生育は平年より遅れている（遅6日）。（檜山振興局 9月15日現在） （上川）生育の遅延は平年よりやや遅れて推移している（遅4日）。（上川総合振興局 9月15日現在） （留萌）生育は平年より遅れている（遅5日）。（留萌振興局 9月15日現在） （オホーツク）低温により、登熟が遅れている（遅6日）。（オホーツク総合振興局 9月15日現在）</p>																				
青森	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は593kgとなり、前年産に比べ11kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「<u>多い</u>」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「<u>不良</u>」と見込まれることによる。 （東北農政局 9月29日付）</p> <p>・9月20日現在の稲刈進捗は、県全体で1%となり、平年に比べて1ポイント低かった。（青森県「攻めの農林水産業」推進本部 9月21日付）</p>																				
岩手	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は538kgとなり、前年産に比べ2kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「<u>やや多い</u>」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「<u>やや不良</u>」と見込まれることによる。 （東北農政局 9月29日付）</p> <p>・9月29日現在、県全体で15%の水田で刈取りが終了しており、平年と比較して17ポイント遅い刈取割合である。刈取始期は9月27日頃と推定され、平年よりも2日遅れている。 地帯別には、北上川上流が14%、北上川下流が16%、東部が9%、北部が6%となっており、特に東部および北部で刈取りが遅れている。 （岩手県 9月29日付）</p>																				
宮城	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は539kgとなり、前年産に比べ15kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「<u>やや多い</u>」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「<u>やや不良</u>」と見込まれることによる。 （東北農政局 9月29日付）</p> <p>・9月25日現在における県内の水稲の刈取面積は5,334haであり、県全体の進行率は8.3%となっている。県全体の刈取始期は9月25日であり、平年に比べて4日遅い。 （宮城県 9月26日付）</p>																				
秋田	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は573kgとなり、前年産に比べ18kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「<u>やや多い</u>」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「<u>やや不良</u>」と見込まれることによる。 （東北農政局 9月29日付）</p> <p>（鹿角）9月25日現在移植水稲稲刈りの進捗状況は2.2%（平年3.7%）となっている。（9月29日付） （北秋田）刈取り作業は本格的に始まり、始期は平年より4日遅い9月26日となった。収量は、例年よりほ場間の差が大きくなっている。（9月30日付） （山本）収穫作業の始期は9月25日（平年比3日遅）。（9月29日付） （秋田）管内の刈取り作業の始期は、平年より1日遅い9月21日となった。9月25日現在の刈取り作業の進捗率は23.3%（平年32.1%）となっている。（9月28日付） （由利）収穫作業は、9月25日現在の作業進捗は3.7%（平年16.2%）。（9月28日付） （仙北）9月15日現在の生育状況は、稈長83.3cm（平年比101%）、穂長18.2cm（平年比101%）、穂数419本/m<sup>2</sup>（平年比95%）、有効茎歩合80.5%（平年差-1.1）で、平年に比べ穂数が少なくなっている。（9月20日付） （平鹿）9月20日現在の水稲の刈取り作業の進捗率は0.3%で、平年よりもやや遅くなっている。（9月22日付） （雄勝）稲刈りが始まった。（9月22日付） （秋田県農林政策課）</p>																				
山形	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は599kgとなり、前年産に比べ9kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「<u>やや多い</u>」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「<u>平年並み</u>」と見込まれることによる。 （東北農政局 9月29日付）</p> <p>・9月25日現在、8月9日出穂期の「つや姫」は、すでに刈取適期に入っている。 ＜つや姫の刈取適期＞  <table border="1"> <thead> <tr> <th>出穂期</th> <th>山形</th> <th>新庄</th> <th>米沢</th> <th>酒田</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8/9</td> <td>9/24～</td> <td>9/26～</td> <td>9/26～</td> <td>9/22～</td> </tr> <tr> <td>8/11</td> <td>9/27～</td> <td>9/29～</td> <td>9/29～</td> <td>9/25～</td> </tr> <tr> <td>8/13</td> <td>9/29～</td> <td>10/2～</td> <td>10/2～</td> <td>9/27～</td> </tr> </tbody> </table> （オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月25日付）</p> <p>・9月14日現在の登熟歩合は、「はえぬき」で84.6%（平年差-3.9%）、「つや姫」で75.3%（平年差-11.5%）と天候の回復とともに登熟が進んだ。8月3日までに出穂した「はえぬき」では刈取適期になっている。青稈歩合も低下して、成熟期を迎えた圃場も多く見受けられる。 （オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月15日付）</p> <p>（東南村山）「はえぬき」は既に刈取適期、「つや姫」も適期を迎える。 天候の回復により、登熟は順調に進んでいる。本年は穂揃いまでに日数を要し、圃場内で登熟に差が見られる。 （村山農業技術普及課 9月25日付）</p>	出穂期	山形	新庄	米沢	酒田	8/9	9/24～	9/26～	9/26～	9/22～	8/11	9/27～	9/29～	9/29～	9/25～	8/13	9/29～	10/2～	10/2～	9/27～
出穂期	山形	新庄	米沢	酒田																	
8/9	9/24～	9/26～	9/26～	9/22～																	
8/11	9/27～	9/29～	9/29～	9/25～																	
8/13	9/29～	10/2～	10/2～	9/27～																	

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
福島	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は549kgとなり、前年産に比べ6kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 (東北農政局 9月29日付)</li> </ul>
茨城	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、出穂期以降、低温・日照不足がみられたものの、「平年並み」が見込まれる。</li> <li>この結果、茨城県10a当たり予想収量は528kgで、前年産に比べ5kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で521kg（前年産比5kg増加）、鹿行で528kg（同3kg増加）、南部で532kg（同9kg増加）、西部で522kg（同1kg減少）が見込まれる。</li> <li>なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は100が見込まれ、作柄表示地帯別では、鹿行、北部及び南部で100、西部で99が見込まれる。 (関東農政局 9月29日付)</li> </ul>
栃木	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数が多くなったものの、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、出穂期の降雨や出穂期以降の日照不足の影響が大きく「不良」が見込まれる。</li> <li>この結果、県の10a当たり予想収量は510kgで、前年産に比べ41kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で527kg（前年産比48kg減少）、中部で501kg（同44kg減少）、南部で492kg（同23kg減少）が見込まれる。</li> <li>なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は93が見込まれ、作柄表示地帯別では、北部で93、中部で91、南部で97が見込まれる。 (関東農政局 9月29日付)</li> </ul>
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「やや多い」となった。</li> <li>登熟は、8月中下旬の日照不足の影響により「やや不良」が見込まれる。</li> <li>この結果、県の10a当たり予想収量は483kgで、前年産に比べ11kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東部で491kg（前年産比13kg減少）、西部で466kg（同8kg減少）が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は99が見込まれ、作柄表示地帯別では、東部で98、西部で100が見込まれる。 (関東農政局 9月29日付)</li> </ul>
千葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「やや多い」となった。</li> <li>登熟は、出穂期以降の日照不足の影響により「やや不良」が見込まれる。</li> <li>この結果、県の10a当たり予想収量は544kgで、前年産に比べ5kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、京葉で524kg（前年産比4kg減少）、九十九里で561kg（同8kg減少）、南房総で528kg（前年並み）が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は100が見込まれ、作柄表示地帯別では、京葉及び九十九里で100、南房総で102が見込まれる。 (関東農政局 9月29日付)</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が、7月当初の日照不足等から、「やや少ない」となった。登熟は全もみ数がやや少ないことによる補償作用等により「やや良」と見込まれる。</li> <li>10a当たり予想収量は528kgで、前年産に比べ53kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 9月29日付)</li> <li>コシヒカリの収穫適期は、県平均で9月15日と平年並みの見込み。8月中旬以降の低温・日照不足により、ほ場間で登熟の進み具合にバラツキが見られる。 (新潟県農林水産部 9月12日付)</li> <li>(南魚沼) &lt;コシヒカリの出穂期ごとの1000℃到達日めやす(9月10日現在)&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・南魚沼市 (出穂期) (到達日めやす) ・湯沢市 (出穂期) (到達日めやす)</li> <li>8月 5日 - 9月17日 8月 9日 - 9月25日</li> <li>8月 9日 - 9月23日 8月15日 - 10月 3日</li> <li>8月13日 - 9月28日 8月19日 - 10月 8日</li> <li>(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 9月13日付)</li> </ul> </li> <li>(糸魚川) 積算気温から見た収穫適期のめやす(コシヒカリ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・糸魚川 (出穂期) (収穫適期) ・能生 (出穂期) (収穫適期)</li> <li>8月17日 - 10月 1日 8月17日 - 10月 3日</li> <li>8月20日 - 10月 5日 8月20日 - 10月 7日</li> <li>8月23日 - 10月10日 8月23日 - 10月12日</li> <li>(糸魚川地域振興局農林振興部 9月14日付)</li> </ul> </li> </ul>
富山	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が、田植期以降概ね高温多照で推移したことから「やや多い」となった。登熟は全もみ数がやや多いことから相反作用等により「やや不良」と見込まれる。</li> <li>10a当たり予想収量は548kgとなり、前年産に比べ18kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 9月29日付)</li> </ul>
石川	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が6月上・中旬が低温で推移したものの6月下旬以降天候が回復したことから、「平年並み」となった。</li> <li>登熟は出穂期以降日照傾向で推移したものの、8月下旬以降多照で推移したため、「平年並み」と見込まれる。</li> <li>10a当たり予想収量は519kgで、前年産に比べ15kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 9月29日付)</li> </ul>
福井	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が6月上・中旬が低温で推移したものの6月下旬以降天候が回復したことから、「平年並み」となった。</li> <li>登熟は出穂期以降日照傾向で推移したものの、8月下旬以降多照で推移したため、「平年並み」と見込まれる。</li> <li>10a当たり予想収量は525kgで、前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 9月29日付)</li> </ul>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
長野	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、全もみ数が平年並みに確保されていることから「平年並み」が見込まれる。</li> <li>この結果、県の10a当たり予想収量は628kgで、前年産に比べ4kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東信で643kg（前年産比15kg増加）、南信で642kg（同14kg増加）、中信で645kg（同11kg増加）、北信で563kg（同37kg減少）が見込まれる。</li> <li>なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別では、東信で101、中信及び南信で102、北信で99が見込まれる。</li> <li>（関東農政局 9月29日付）</li> <li>9月15日からの向こう1か月間の病害虫の発生量は、穂いもちちは平年並～やや少、紋枯病はやや少、白葉枯病は平年並、ツマグロヨコバイと、セジロウンカは平年並～やや少、カメムシ類（斑点米）は平年並～やや多と予報（長野県病害虫防除所 9月15日付）</li> </ul>
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多くなり、1穂当たりもみ数が相反作用によりやや少なくなったことから「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、8月上旬以降、気温及び日照時間はおおむね平年並みで推移していることから「平年並み」が見込まれる。</li> <li>以上のことから、9月15日現在の10a当たり予想収量は517kg（前年産に比べ17kg減少）が見込まれる。</li> <li>作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、湖南は526kg（前年産に比べ17kg減少）、湖北は498kg（同17kg減少）が見込まれる。</li> <li>被害は、いもち病、紋枯病及びカメムシ等の発生がみられる。</li> <li>（近畿農政局 9月29日付）</li> </ul>
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄は、穂数は、茎数がやや多くなり、7月以降の気温が平年を上回って経過したことから「やや多い」となった。</li> <li>1穂当たりもみ数は、出穂前の気温が平年を上回って経過したものの、7月下旬、8月中旬の日照時間が平年を下回ったことや穂数がやや多くなったことによる相反作用により「やや少ない」となった。</li> <li>全もみ数は、穂数がやや多くなり、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、8月以降、気温及び日照時間がおおむね平年並みに推移していることや全もみ数が平年並みとなったことから「平年並み」が見込まれる。</li> <li>以上のことから、9月15日現在の10a当たり予想収量は497kg（前年産に比べ4kg減少）が見込まれる。</li> <li>作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、県南は495kg（前年産に比べ5kg減少）、県北は501kg（同4kg増加）、淡路は506kg（同11kg減少）が見込まれる。</li> <li>被害は、山間部を中心に獣害等の発生がみられる。</li> <li>（近畿農政局 9月29日付）</li> <li>9月15日からの向こう1か月間の病害虫の発生量は、穂いもちちは平年並、ヒメトビウンカはやや多、トビイロウンカは平年並と予報（兵庫県病害虫防除所 9月15日付）</li> </ul>
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、中北部では5月中旬から6月中旬までの初期生育、分けつ期間がおおむね天候に恵まれたことから茎数が確保され、平年に比べて「多い」となった。また、南部では7月中旬の高温多照により分けつが促進されたため、「やや多い」が見込まれ、県平均では「多い」が見込まれる。</li> <li>また、1穂当たりもみ数は、中北部では「やや少ない」となり、南部及び県平均では「やや少ない」が見込まれる。</li> <li>これらのことから、全もみ数は中北部では「やや多い」となり、南部及び県平均では「平年並み」が見込まれる。</li> <li>登熟は、中北部では、もみ数がやや多かったこと及び8月以降の強いつゆによる倒伏等の影響から「やや不良」が見込まれる。また、南部では9月以降気温日較差が大きい状況で推移していることから「やや良」が見込まれ、県平均では「平年並み」が見込まれる。</li> <li>以上のことから、県の10a当たり予想収量は538kgとなり、前年産に比べ9kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が545kg（前年産に比べ3kg増加）、中北部が523kg（同6kg増加）と見込まれる。</li> <li>また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102（やや良）と見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が102（やや良）、中北部ともに102（やや良）と見込まれる。</li> <li>（中国四国農政局 9月29日付）</li> </ul>
広島	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄概況は、田植え後日照時間が長く、7月以降は高温傾向で推移したため分けつが促進され茎数が多くなった。これに伴い穂数は「多い」となった。</li> <li>また、1穂当たりもみ数は、幼穂が形成される7月に日照時間が平年を下回ったことに加え、穂数が多かったことから、「少ない」となった。</li> <li>この結果、全もみ数は「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、7月下旬から8月の気温が比較的高く、日照時間も確保されたため、「平年並み」と見込まれる。</li> <li>以上のことから、県の10a当たり予想収量は528kgで、作柄が良かった前年産に比べ3kgの減少が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が532kg（前年産に比べ2kg減少）、北部が525kg（同5kg減少）と見込まれる。</li> <li>また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101（平年並み）と見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が102（やや良）、北部が101（平年並み）と見込まれる。</li> <li>（中国四国農政局 9月29日付）</li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、田植期以降、6月中旬まで及び7月中旬が高温多照で、分けつが進み茎数が多くなったことから「多い」と見込まれる。一方、1穂当たりもみ数は、穂数が多いと見込まれることから相反作用が働き「やや少ない」と見込まれる。この結果、全もみ数は「やや多い」と見込まれる。</li> <li>登熟は、8月がおおむね天候に恵まれたことから順調に進んでおり、「平年並み」と見込まれる。</li> <li>以上のことから、県の10a当たり予想収量は519kgとなり、前年産に比べ7kg増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東部が497kg、西部が530kg、県北が518kgと見込まれる。</li> <li>また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103（やや良）と見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東部及び県北が103（やや良）、西部が104（やや良）と見込まれる。</li> <li>（中国四国農政局 9月29日付）</li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、分けつ期の5月から7月末まで多照で推移したことから分けつが旺盛で、一部で中干しが出来ず無効分けつが多いほ場もあったものの、「やや多い」となった。</li> <li>また、1穂当たりもみ数は、6月下旬から7月上旬が寡照となったことから、この期間に幼穂形成期を迎えたほ場ではやや少なくなったものの、それ以外の期間は多照であったことから全体的には、「平年並み」となった。</li> <li>この結果、地帯別にはばらつきがあるものの、全もみ数は「平年並み」となった。</li> <li>登熟は、出穂最盛期以降8月末までは高温多照で推移していたが、9月に入って低温寡照傾向で推移していることから、「平年並み」が見込まれる。</li> <li>以上のことから、県の10a当たり予想収量は506kgとなり、作柄が良かった前年産に比べ2kgの減少が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東予が498kg（前年産に比べ1kg増加）、中予が537kg（同8kg減少）、南予が489kg（同1kg増加）が見込まれる。</li> <li>また、農家等が使用しているふるい目幅（四国地域1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102（やや良）が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東予、中予が101（平年並み）、南予は103（やや良）が見込まれる。</li> <li>（中国四国農政局 9月29日付）</li> <li>今後の予想 水稻トビイロウンカの発生状況は、広範囲での埋枯れ被害の発生はないと考えられるが、一部で密度の高いほ場が見られたこと、気象予報では気温は平年並が高いとされていることから遅くまで増殖する可能性があり、収穫の遅い晩生品種で埋枯れ発生の可能性がある。</li> <li>（愛媛県病害虫防除所 9月20日付）</li> </ul>

		収量構成要素、作柄及び品質等の概況
高	知	<p>&lt;早期栽培の9月15日現在の作柄&gt;  穂数は、田植え後、高温多照で推移したため、「多い」となった。また、1種当たりもみ数は、6月下旬以降、日照不足となったため、「やや少ない」となった。この結果、全もみ数は「多い」となった。  登熟は、全もみ数が多いことや出穂期と収穫期に日照不足や台風の影響を受けたため、「やや不良」となった。  以上のことから、早期栽培の10a当たり予想収量は498kgとなり、前年産に比べ17kg増加した。また、農家等が使用しているふるい目幅（四国地域は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は104（やや良）となった。</p> <p>&lt;普通栽培の9月15日現在の作柄&gt;  穂数は、7月以降の気温が平年を上回ったため、「やや多い」となった。また、1種当たりもみ数は、7月中旬から8月上旬にかけて日照時間が平年を下回ったため、「やや少ない」となった。この結果、全もみ数は「平年並み」となった。  登熟は、出穂期以降の日照時間や気温日較差がおおむね平年並みに推移したため、「平年並み」と見込まれる。  以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は433kgとなり、前年産に比べ5kgの増加が見込まれる。また、作況指数は101（平年並み）と見込まれる。</p> <p>&lt;県及び作柄表示地帯別&gt;  高知県の10a当たり予想収量は470kgとなり、前年産に比べ12kgの増加が見込まれる。また、作況指数は103（やや良）と見込まれる。  作柄表示地帯別にみると、10a当たり予想収量は中東部が489kg（前年産に比べ13kg増加）、西部が440kg（同10kg増加）と見込まれる。また、作況指数は中東部が103（やや良）、西部が102（やや良）と見込まれる。  （中国四国農政局 9月30日付）</p>
福	岡	<p>&lt;福岡地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数・1種当たりもみ数ともに「平年並み」となったことから、「平年並み」となった。  登熟は、早生種の芽つくし等で出穂以降、高温・多照に経過していることから、「やや良」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年並みの486kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>&lt;北東部地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「平年並み」となった。  登熟は、早生種の芽つくし等で出穂以降、高温・多照に経過していることから、「やや良」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る496kg、作況指数は「103」が見込まれる。</p> <p>&lt;筑後地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「多い」となった。  登熟は、ヒノヒカリの登熟期の気温が良好に経過していることから、「平年並み」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る530kg、作況指数は「103」が見込まれる。</p> <p>&lt;被害状況&gt;  気象被害は、一部の地域で7月の九州北部豪雨による土砂流入や冠水等の発生、早期栽培や早生種の芽つくしの一部で高温障害による心白等の発生がみられる。病害は、いもち病、紋枯病、内臓褐変病、もみ枯細菌病がみられるが、平年に比べ少ない発生となっている。虫害等は、トビイロウンカの発生が多くなっている。総体的に被害は、平年並みの発生となっている。  （九州農政局 9月29日付）</p>
熊	本	<p>&lt;熊本地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となった。  登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る536kg、作況指数は「102」が見込まれます。</p> <p>&lt;阿蘇地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「少ない」となったことから、「やや多い」となった。  登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る524kg、作況指数は「104」が見込まれる。</p> <p>&lt;県南地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となった。  登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る520kg、作況指数は「103」が見込まれる。</p> <p>&lt;天草地帯の9月15日現在の作柄&gt;  全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。  登熟は、早期栽培の登熟が良好であったことから、「やや良」が見込まれる。  このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る448kg、作況指数は「103」が見込まれる。</p> <p>&lt;被害状況&gt;  気象被害は、一部降雨による倒伏の発生がみられる。病害は、いもち病、紋枯病がみられるが、平年に比べやや少ない発生となっている。虫害等は、早期栽培においてカメムシの発生がみられた。総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっている。  （九州農政局 9月29日付）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
宮 崎	<p>&lt;早期栽培水稲の9月15日現在の作柄概況&gt;</p> <p>・作柄概況  全もみ数は、穂数が「やや多い」となったことから、平年に比べ「やや多い」となった。登熟は、7月上旬以降、おおむね天候に恵まれたことから、「やや良」となった。  このことから、10a当たり収量は平年を上回る494kg（前年との差+33kg）、作況指数は「103」となった。</p> <p>・被害状況  気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で、一部で倒伏の発生がみられた。病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べやや少なくなった。虫害等は、カメムシの発生が多く、スクミリンゴガイによる食害も平年に比べやや多くみられた。総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となった。</p> <p>&lt;普通栽培水稲の9月15日現在の作柄概況&gt;</p> <p>・作柄概況  (広域沿海地帯)  全もみ数は、穂数が「平年並み」となったが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降、高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並みの476kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>(広域露島地帯)  全もみ数は、穂数が「平年並み」となったが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降、高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並みの535kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>(西北山間地帯)  全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降、高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並みの486kg、作況指数は「100」が見込まれます。</p> <p>・被害状況  気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で葉先裂傷等がみられる。病害は、いもち病や紋枯病の発生は平年に比べやや少ない発生となっている。虫害等は、スクミリンゴガイの食害は平年並みだが、一部の地域では、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっている。総体的に被害は、平年並みの発生となっている。</p> <p>(九州農政局 9月29日付)</p>
鹿 児 島	<p>&lt;早期栽培水稲の9月15日現在の作柄概況&gt;</p> <p>・作柄概況  全もみ数は、穂数、1種当たりもみ数ともに「やや多い」となったことから、「多い」となった。登熟は、降雨等により一部地域で不稔もみが発生したものの、登熟期全般が高温・多照で経過し粒の肥大や充塞が良好であったことから、「やや良」となった。このことから、鹿児島県の早期栽培水稲の10a当たり収量は平年を上回る472kg（前年との差+43kg）、作況指数は「107」となった。</p> <p>・被害状況  気象被害は、台風第5号の影響は軽微なものとなった。病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べ少なくなった。虫害等は、カメムシの発生がみられた。総体的に被害は、平年に比べ少ない発生となった。</p> <p>&lt;普通栽培水稲の9月15日現在の作柄概況&gt;</p> <p>・作柄概況  (薩摩半島地帯)  全もみ数は、1種当たりもみ数が「やや少ない」となったが、穂数が「多い」ことから、「多い」となった。登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用から、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る498kg、作況指数は「105」が見込まれる。</p> <p>(出水薩摩地帯)  全もみ数は、穂数が「多い」となり、種当たりもみ数は「平年並み」となったことから、「多い」となった。登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用から、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る515kg、作況指数は「104」が見込まれる。</p> <p>(伊佐始良地帯)  全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「平年並み」となった。登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る522kg、作況指数は「103」が見込まれる。</p> <p>(大隅半島地帯)  全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1種当たりもみ数が「少ない」となったことから、「少ない」となった。登熟は、出穂期以降、日照時間に恵まれ、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並みの480kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>&lt;被害状況&gt;  気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で葉先裂傷等がみられる。病害は、いもち病の発生は平年並みの発生となっている。虫害等は、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっている。総体的に被害は平年に比べやや少ない発生となっている。</p> <p>(九州農政局 9月29日付)</p>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：農政局が公表している資料の「前年度比」は、確定値との比較となっている。

注3：更新箇所については下線で表した。

## 参考資料

平成29年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局、北海道農政事務所)、  
平成28年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局、北海道農政事務所)、  
平成29年産米の農産物検査結果(速報値/平成29年8月31日現在)(農林水産省)、  
平成28年産米の農産物検査結果(速報値/平成28年8月31日現在)(農林水産省)、  
平成29年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、  
平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、

農作物の生育状況 9月15日現在(北海道 9月21日)、農作物生育状況 9月15日現在(北海道空知総合振興局 9月21日)、  
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道石狩振興局 9月21日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道後志総合振興局 9月21日)、  
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道胆振総合振興局 9月21日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道日高振興局 9月21日)、  
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道渡島総合振興局 9月21日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道檜山振興局 9月21日)、  
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道上川総合振興局 9月21日)、農作物生育状況調査の概要 9月15日現在(北海道留萌振興局 9月21日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 9月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 9月21日)、  
稲刈進捗状況(9月20日現在)(青森県 9月21日)、  
水稲の刈取状況(9月29日現在概況速報)について(岩手県農林水産部 9月29日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 9月30日)、  
平成29年産水稲の刈取状況について(9月25日現在)(宮城県農林水産部農産園芸環境課 9月26日)、  
米づくり技術情報 No.14(オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月25日)  
米づくり技術情報 No.13(オールやまがた米づくり日本一運動本部 9月15日)  
おいしい米づくり情報第11号 適期刈取編(村山農業技術普及課 9月25日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第10号)(新潟県農林水産部 9月12日)、  
稲作情報No.13(コシヒカリ刈取り情報)(南魚沼地域農業振興協議会、南魚沼農業改良普及センター 9月13日)  
9月14日現在積算気温から見た収穫適期のめやす(糸魚川地域振興局農林振興部 9月14日)  
病害虫発生予報第6号(長野県病害虫防除所 9月15日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(兵庫県病害虫防除所 9月15日)、  
水稲トビイロウカの発生調査結果について(愛媛県病害虫防除所 9月20日)、